

おいのもり ほけんかん へきしやえん

2. 狼木保健館と碧松園



説明を聞く私達



保健館の受け付け

建物は昭和26年に完成しました。



保健館の外見

当時、鳴海病院の院長であった鳴康仲氏が、地域の無医村解消運動の一環として建てまし



診察室の中

た。それ以降、狼森は農村衛生のモデル地区として、日本中に名が知られています。

中には鳥のはくせい
やかけじくがありました。
した。お宝?

庭がきれいでした。
外から見ると古いかなは
意外ときれいでした。

碧松園は大石武学流6代宗家外崎亭陽の作で昭和57年に完成した庭園です。

大石武学流とは、江戸時代末期から現在まで津軽地方一円に広まった庭園の流派で、瑞楽園などの名勝に指定されている庭もあります。

ほかに亭陽の作った有名な庭には、弘前城植物園見本庭園があります。

みんながほんと入ることの
わたしたちは入ることができてラッキーでした。

診察室がありました。

れんかの暖房がありました。

受け付けの窓が小さかった。